



一般社団法人日本解剖学会

2026（令和8）年度
定時社員総会

資料

当日はスライド版料を画面共有とします

日 時：2026（令和8）年 3月24日（火）
10:50～12:00

会 場：東京慈恵会医科大学
2号館講堂（A会場）

2026（令和8）年度定時社員総会
議 題

開会の辞

議長選出

I. 議事録署名人の選任

II. 理事長報告

III. 報告事項

1. 会員状況
2. 物故会員
3. 教授就任による新代議員
4. 理事欠員補充について
5. 12th APICA日本開催について
6. 臨床医学・歯学の教育及び研究におけるご遺体の取扱いに関する共同声明について
7. CST事業法人化について
8. 年会費支払方法の変更について
9. その他

IV. 審議事項

1. 新永年会員の件
2. 申請による新代議員の件
3. 2025（令和7）年度事業および業務監査報告の件
 - ① 学術集会開催状況
 - ② 会議開催状況
 - ③ 学会誌の刊行状況
 - 1) 編集委員会
 - 2) A S I 編集委員会
 - ④ 委員会報告
 - 1) 認定解剖組織技術者資格審査委員会
 - 7) アウトリーチ委員会
 - 2) 解剖体委員会
 - 8) 学術委員会
 - 3) 解剖学用語委員会
 - 9) 医療専門職教育委員会
 - 4) 海外交流委員会
 - 10) 倫理・利益相反委員会
 - 5) 教育委員会
 - 11) ダイバーシティ推進委員会
 - 6) 若手育成委員会
 - 12) 若手研究者の会
 - ⑤ 研究の奨励および業績の奨励
 - ⑥ 内外学術団体との協力ならびに連絡
 - ⑦ 技術者認定
4. 2025（令和7）年度決算および会計監査報告の件
5. 2026（令和8）年度予算および事業計画の件
6. 2027（令和9）年度予算執行の件
7. 第134回（2029（令和11）年度）総会・全国学術集会開催担当校の件
8. その他

V. 第132回（2027（令和9）年度）日本解剖学会総会・全国学術集会準備状況

閉会の辞

開会の辞

議長選出

I. 議事録署名人の選任

II. 理事長報告

III. 報告事項

1. 会員状況：2025（令和7）年12月31日現在

正会員 1,891名 永年会員 195名 団体会員 31名
名誉会員 27名 賛助会員 17名 寄贈会員 9名
※ほか、休会中の会員 10名

2. 物故会員

氏名	逝去日	会員種別	備考
寺田 春水	R 2. 5. 1	名誉会員	北里大学・名誉教授
出浦 滋之	R 6. 1.	名誉会員	岐阜大学・名誉教授
三木 明德	R 6. 1. 2	永年会員	神戸大学・名誉教授
藤 英俊	R 6. 3. 23	永年会員	福岡歯科大学・名誉教授

3. 教授就任による新代議員

氏名	教授就任日	所属
江角 重行	R 7. 4. 1	岐阜大・解剖学
貴田 浩志	R 7. 4. 1	福岡大・医・解剖学
塩崎 一成	R 7. 4. 1	日本大・松戸歯・解剖学
武智 正樹	R 7. 4. 1	東京科学大・口腔顎顔面解剖学
服部 剛志	R 7. 4. 1	奈良医大・解剖 2
本田 岳夫	R 7. 4. 1	産業医大・解剖 1
味八木 茂	R 7. 5. 1	香川大・医・組織細胞生物学
辻岡 洋	R 7. 8. 1	福島医大・神経解剖・発生学
臼井 紀好	R 7. 9. 1	新潟大・脳機能形態学
松下 祐樹	R 7. 10. 1	長崎大・硬組織発生再生学
粟屋 智就	R 8. 1. 1	大阪公大・機能細胞形態学（解剖 1）
西村 渉	R 6. 4. 1	自治医大・医・解剖学

4. 理事欠員補充について

関東支部選出の岡部繁男理事、ならびに近畿支部選出の島田昌一理事は今年度永年会員推挙候補者であるため、令和8（2026）年3月24日付での理事退任となる。

定款第23条2項「任期満了前に退任した理事の補欠として、または増員により選任された理事の任期は、前任者または他の在任理事の任期の残存期間と同一とする。」、ならびに役員選出細則第5条「理事及び監事に欠員を生じたときは、次点者を繰り上げ当選とする。ただし、その任期は前任者の残任期間とする。」各規定により、関東支部：阿部伸一代議員、ならびに近畿支部：原田彰宏代議員が令和8（2026）年3月24日で理事就任予定である。任期は岡部繁男理事、ならびに島田昌一理事の残り任期となり、就任期間は2027（令和9）年度定時社員総会終結時までとなる。

2024（令和6）年11月12日

一般社団法人日本解剖学会 次期代議員 各位

一般社団法人日本解剖学会 選挙管理委員会

委員長 伊藤

委員 秋田



徳田
上印

謹啓

時下益々御清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別の御高配を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、11月12日に選挙管理委員会を、一般財団法人口腔保健協会にて開催し、過日行われました日本解剖学会2025・2026（令和7・8）年度役員選出選挙の開票を行いました。以下の開票結果につきましては直ちに理事長に報告書を提出致しました。

以上、御報告申し上げます。

敬具

—記—

投票結果 有権者数 266名、投票総数209通（78.57%）
有効通数 209通、無効通数 0通

監事開票結果（敬称略） 有効通数209通、投票総数209通のうち 有効票数352票、無効票数0票
理事開票結果（敬称略） 有効通数209通、投票総数209通のうち 有効票数570票、無効票数1票

監事（定員2名）

★ 理事優先	岡部繁男	19 票
★ 理事優先	大和田祐二	17 票
※ 1.	尾崎紀之	14 票
※ 2.	秋田恵一	14 票
★ 理事優先	天野修	13 票
次点	藤山文乃	11 票

中部支部（定員3名）

※ 1.	堀 修	10 票
※ 2.	宮田卓樹	10 票
※ 3.	飯野哲	8 票
※ 次点	和氣弘明	8 票

近畿支部（定員3名）

1.	島田昌一	11 票
2.	八木秀司	7 票
3.	八代健太	6 票
※ 次点	原田彰宏	5 票
※ 次々点	宮田信吾	5 票

理事

北海道支部（定員1名）

1.	吉田成孝	6 票
※ 次点	網塚憲生	3 票
※ 次々点	藤山文乃	3 票

東北支部（定員1名）

★ 1.	大和田祐二	11 票
次点	後藤薫	3 票

関東支部（定員5名）

1.	仲嶋一範	29 票
2.	寺田純雄	25 票
★ 3.	岡部繁男	18 票
★ 4.	天野修	17 票
5.	徳田信子	16 票
※ 次点	阿部伸一	12 票
※ 次々点	阪上洋行	12 票

中国・四国支部（定員2名）

1.	大内淑代	13 票
2.	海藤俊行	12 票
次点	池上浩司	6 票

九州支部（定員2名）

1.	菱川善隆	13 票
2.	高山千利	11 票
※ 次点	若山友彦	3 票
※ 次々点	神野尚三	3 票

※「役員選出細則」第4条（5）により、得票数が同数の者の中から当選人を決定する場合には、年長の者を優先します

★ 監事につきましては、「まず理事を決定し、次に監事を決定する」と役員選出細則第4条（4）に規定されておりますので、岡部、八木沼、天野各先生は理事就任が優先されます。

以上

5. 12th APICA日本開催について

APICAは、アジア太平洋地域の解剖学分野の振興と交流を目的として1996年に第1回大会がソウルで開催され、以降2～3年に一回の頻度で各国にて開催されてきた。日本では2002年3月に第3回大会が浜松で開催されたがそれ以降、開催されておらず、理事会において招致の可能性について審議を続けてきた。その結果、2025年7月開催の理事会において、2027年3月に岡山で開催予定の第132回日本解剖学会全国学術集会（大内淑代会頭）と併催する形で、第12回APICAを日本に招致することが決議された。

理事会決議を受けて、組織委員会を設けて招致のための具体的な提案内容を検討し、8月に中国広州で開催された第11回APICA International Advisory Committeeで仲嶋理事長がプレゼンテーションを行った。投票の結果、日本からの提案に高い評価を頂き、第12回APICAの日本開催が決定した。

開催地決定後、第12回APICAの開催体制について常務理事会及び理事会で審議した結果、全国学術集会とは別に会頭を設けることとなり、広島大学の池上浩司教授（常務理事、中国・四国支部長）に会頭をお務め頂くことが決議された。なお、APICAはホスト国の解剖学会が各国の解剖学会の代表者を接遇するという側面もあるため、仲嶋理事長を委員長とする組織委員会を設置し、日本解剖学会としての対応が必要な案件を担当して池上会頭をサポートすることとなった。現時点で決まっている具体的な体制は以下のとおりである。

第12回APICAの概要と開催体制（敬称略、順不同）

会期：2027年3月（第132回日本解剖学会全国学術集会・総会と併催）

会場：岡山大学鹿田キャンパス 〒700-8558岡山市北区鹿田町2-5-1

会頭：池上浩司（常務理事）

組織委員会構成：

委員長：仲嶋 一範（理事長）

副委員長：大和田祐二（常務理事、11th APICA International Advisory Committeeメンバー）、
堀 修（常務理事）

委員：池上 浩司（常務理事、12th APICA会頭）

宮田 卓樹（常務理事）、

竹林 浩秀（12th APICAプログラム委員長、11th APICA International Advisory Committee
メンバー、常任幹事）、

大内 淑代（第132回全国学術集会会頭、理事）

寺田 純雄（11th APICA International Advisory Committeeメンバー、理事）

藤山 文乃（理事）

山岸 覚（海外交流委員会委員長）

6. 臨床医学・歯学の教育及び研究におけるご遺体の取扱いに関する共同声明について

一昨年度末に大きな問題となった、ご遺体に関連した美容外科医による不適切行為の事案を受け、医学・歯学系の諸団体と討議を重ねてきた。

その結果を、「臨床医学・歯学の教育及び研究におけるご遺体の取扱いに関する共同声明」として以下のように連名で発出した。

2025年9月5日

臨床医学・歯学の教育及び研究におけるご遺体の取扱いに関する共同声明

一般社団法人日本医学会連合
一般社団法人日本歯科医学会連合
一般社団法人全国医学部長病院長会議
歯科大学学長・歯学部長会議
篤志解剖全国連合会
一般社団法人日本解剖学会
一般社団法人日本外科学会
公益社団法人日本整形外科学会
一般社団法人日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会
一般社団法人日本脳神経外科学会
一般社団法人日本救急医学会
公益社団法人日本口腔外科学会
公益社団法人日本産科婦人科学会
一般社団法人日本形成外科学会
公益社団法人日本麻酔科学会
一般社団法人日本泌尿器科学会
公益社団法人日本口腔インプラント学会

死者に対する畏敬の念は、文化・宗教・時代を超えて多くの社会で共有されてきた普遍的な倫理観であり、すべての者が保持すべき基本姿勢である。人の尊厳は死後も失われることなく保持されるべきであり、いかなる場合においてもご遺体を取り扱う際には、深い敬意と特段の配慮が必要である。

わが国の医療関係者の教育においては、無条件・無報酬の篤志献体制度にもとづく解剖学教育がその入口に位置付けられている。解剖学実習は、医学・歯学の基礎を学ぶ場としての意義に加え、医療者としての倫理観・使命感の形成に欠かすことのできない貴重な機会である。人体の精巧さや複雑さに畏怖をおぼえ、自らの経験と成長が献体者とそのご家族の無償のご厚意によって支えられていることを知る。それにより、自らに負託された責任の重さを自覚するとともに、未知の病態や生命現象と格闘することを覚悟し社会に貢献する決意を新たにした初心を、すべての医療関係者はその生涯を通して忘れてはならない。わが国では解剖学の教育のみならず、医学・歯学研究や、必要性・重要性が近年増しつつある外科手術手技研修（Cadaver Surgical Training: CST）も篤志献体制度に依拠している。医学・歯学の教育・研究に携わる者は、篤志献体者ならびにご家族に対する感謝と配慮の気持ちを忘れてならない。医学・歯学の進歩と技術向上に貢献するわが国独自の本制度を維持・発展させていくためには、ご遺体に関わるわが国の国民感情や社会的・文化

的背景にも十分に配慮しつつ、献体者やそのご家族の信頼を裏切らぬよう、またご意向を尊重するよう、関連教育機関及び学協会は誠意をもって行動することが求められる。

そこで、本声明発出団体は連名で、国内外を問わずご遺体を取り扱う教育・研究の適正化を主導する責務を果たすべく、以下に掲げる事項を厳守し、会員に不適切な行為が発覚した場合には、刑事罰の対象となる可能性があることも踏まえ、厳正な対応を行うことを宣言する。また、ご遺体を用いた臨床医学・歯学の教育及び研究を行う大学に対し、ご遺体の使用に関するルールやガイドライン等の周知や啓発を徹底するとともに、不適切な取扱いに対しては、厳正に対処することを学内ならびに学外の CST 等の参加者に周知するよう求める。さらに、学内で不適切な行為が発覚した場合には、大学の責任において懲戒処分等を行い、極めて悪質な場合には刑事罰の対象となる可能性があることも踏まえた速やかな是正措置を講じることを要請する。

1. 死者の尊厳と献体者やそのご家族の意思の尊重

- ・死者への礼意と敬意をもち、また献体者に対するご家族の深い想いに配慮し、一切の軽率な行動を慎むこと
- ・死者（臓器部分を含む）の画像等のデータを含む個人情報は厳密に管理し、不適切な共有は行わないこと
- ・ご遺体を用いた教育・研究を行う際は、わが国の篤志献体制度の理念を尊重し、国内外を問わず、いわゆる「遺体ビジネス」と誤解されることのないよう、透明性・公正性ならびにわが国の篤志献体制度への影響に十分配慮すること

2. 法令及び倫理指針、ガイドライン等の遵守

- ・献体によるご遺体を用いた人体解剖を行うにあたっては、「献体解剖倫理指針」（篤志解剖全国連合会・日本篤志献体協会・日本解剖学会）を遵守すること
- ・CST 等の臨床医学教育目的におけるご遺体の使用に関しては、「臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン」（日本外科学会・日本解剖学会）を遵守すること
- ・医学研究目的におけるご遺体の使用に関しては、上記指針・ガイドラインに加え、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）などの関連指針*を遵守すること
- ・上記の指針やガイドラインに加え、実施機関の倫理委員会等による審査・承認を受け、ご遺体の使用においては、承認内容の趣旨や内容から逸脱した行為は行わないこと

3. ご遺体の適正な取扱いとガバナンスの徹底

- ・医学・歯学教育及び研究におけるご遺体の管理は解剖学教室のみならず大学全体の責任として行うこと
- ・関連学協会は、専門性に依拠する自律的規範意識（プロフェッショナル・オートノミー）に則り、ご遺体の適切な取扱いについて会員ならびに、関係する医師・歯科医師等への指導・監督を徹底すること

- ・関連学協会は、学会としてあるいは会員が海外でご遺体を用いた臨床医学の教育及び研究を行う場合においても、ご遺体に関わるわが国の国民感情や社会的・文化的背景に十分配慮した倫理遵守を徹底するように学会として責任をもって指導すること
- ・ご遺体を用いた臨床医学・歯学の教育及び研究を実施する大学及び関連学協会は、上記の関連指針等の遵守をあらかじめ関係者に周知すると共に、不適切な行為が確認された場合、その者に対し、大学・学協会の責任において、必要に応じて刑事罰の対象となる可能性があることも踏まえた厳正な対応を行い、速やかに是正措置を講じること

注釈

*関連する指針の例：「解剖体を用いた研究についての考え方と実施に関するガイドライン」（日本解剖学会）、「人体および人体標本を用いた医学・歯学の教育と研究における倫理的問題に関する提言」（日本解剖学会・日本病理学会・日本法医学会）、「臨床医学研究における遺体使用に関する提言」（日本外科学会 CST 推進委員会）、「医療機器の研究開発におけるカダバースタディー**に関するガイダンス」（経済産業省・国立研究開発法人日本医療研究開発機構）

**カダバースタディー：ここでは特に別途生前の同意とご家族の承認を得た上で献体者のご遺体を医療機器開発等の目的で使用するケースを指す。

7. CST事業法人化について

日本外科学会主催の「CST推進委員会/CST事業の法人設立準備委員会合同委員会」がこれまで7回開催され、CST事業の法人設立準備委員会合同委員会には、日本解剖学会より学会代表者として仲嶋 一範理事長、CST推進委員会には日本解剖学会からの外部委員として4名（大和田祐二、宮田 卓樹、徳田 信子、尾崎 紀之）が参加している。現在、新法人の定款（案）、施行規則（案）および事業計画（案）について、関係学会・団体との間で内容の妥当性等に関する意見交換を行っている。

新法人は定款（案）第3条（下記参照）に記載している目的で運営される予定である。現在、CST推進委員会で行っているCSTレビュー業務やその指導については各学会がボランティアで行っているが、今後はレビュー業務の一部を第16条（下記参照）に記載の業務執行理事が担当して学会側の負担軽減を図る予定である。また、業務執行理事は、関連省庁との連絡やCST適正実施に必要な教育資材の作成、市民への啓発活動、個別の相談案件への対応など、多くの業務を中心となって担う。そのため、責任の所在を明確にして適切に業務を遂行して頂く体制とするため、業務執行理事には報酬を新法人から支給する予定である。

また日本解剖学会の立ち位置としては社員としてではなく、監事の立場での参加を予定している。定款（案）には決議について第28条（下記参照）に記載のとおり、監事として異議を述べる体制に加えて、ご遺体の取り扱いに関する内容を決議する場合には、献体者の意向に反することのないように、事前に篤志解剖全国連合会および日本解剖学会と十分に調整する体制も整備される予定である。

（目的）

第3条 当法人は、ご遺体を使用した臨床医学の教育と研究（Cadaver Surgical Training；以下「CST」という。）の適正な普及を目的とし、その目的に資するため、次の事業を行う。

- (1) CSTの実施のためのガイドラインの整備・公表と、実施内容の評価・指導からなる「監理事業」
- (2) CSTの新規導入時の体制構築の支援や実施における適切な指導の補助などによる「支援事業」
- (3) CSTの適正実施に必要な医療関係者に対する教育と、市民に対する啓発活動からなる「教育事業」
- (4) その他当法人の目的を達成するために必要な事業

（役員）

第16条 当法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 3名以上25名以内
- (2) 監事 7名以内

2 理事のうち、1名を理事長、1名を副理事長、1名を専務理事、4名以内を常任理事とする。理事

長及び副理事長をもって法人法上の代表理事とし、専務理事及び常任理事をもって法人法上の業務執行理事とする。

3 業務執行理事には、社員総会の決議による報酬を支給する。

(報酬等)

第22条 業務執行理事の報酬、その他の職務執行の対価として当法人から受ける財産上の利益は、社員総会の決議によって定める。

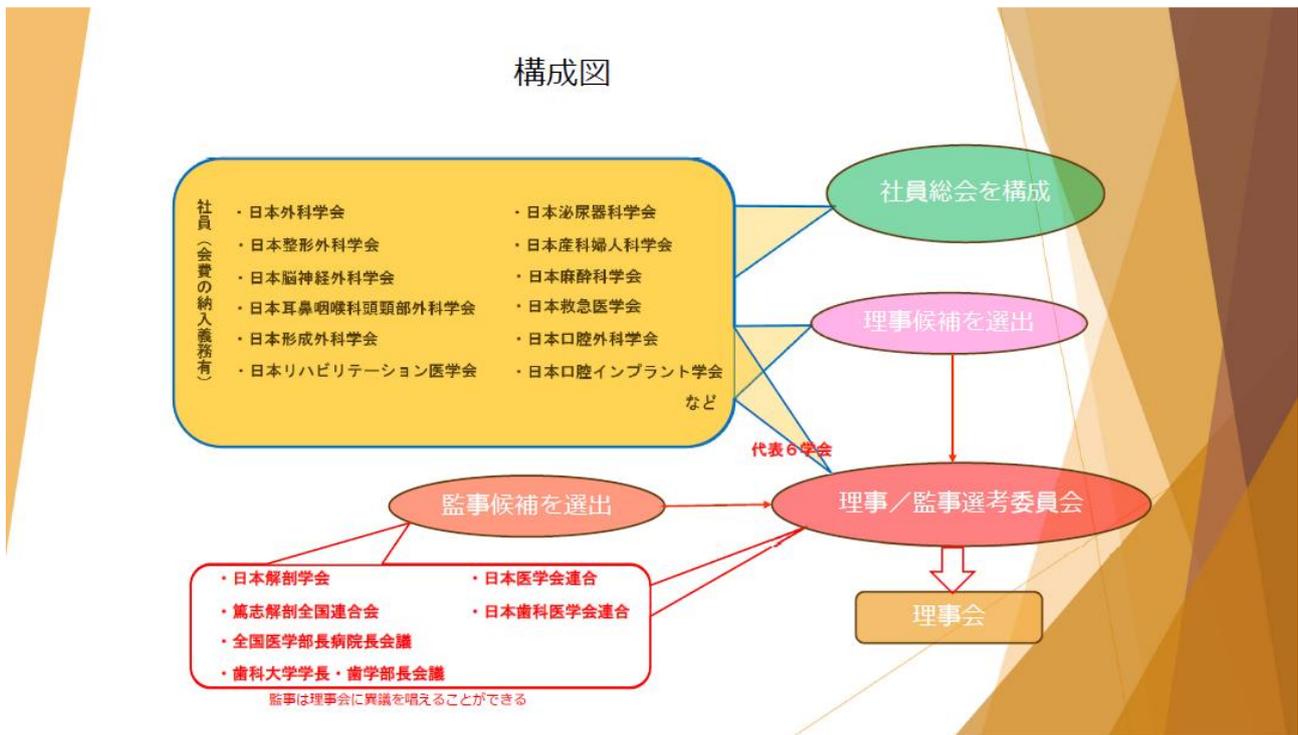
(決議)

第28条 理事会の決議は、この定款に別段の定めがある場合を除き、議決に加わることができる理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。但し、監事は理事会の決議に異議を述べることができる。

2 前項の規定にかかわらず、一般法人法第96条の要件を満たすときは、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。

3 本条第1項の規定にかかわらず、ご遺体の取り扱いに関する内容を決議する場合には、献体者の意向に反することのないように、事前に篤志解剖全国連合会および日本解剖学会と十分に調整する。

現時点での GST 事業法人構成案



8. 年会費支払方法の変更について

昨年度の定時社員総会時に2025年度夏頃変更予定の旨、報告したが、下記のように予定日が変更となっている。クレジットカード決済とコンビニ決済方式を新たに導入予定である。

従来方式	請求時期	備考
郵便振替	2月、6月、10月、12月	2026年3月より新方式移行予定
銀行引落	毎年10月27日	希望者のみ。要申込

新方式	請求時期	備考
New! クレジットカード	年2回程度予定 (初回請求 2026年3月中旬頃)	予めOHASYSへ要登録
New! コンビニ支払い	年2回程度予定 (クレジットカード初回請求後)	クレジットカード決済が出来なかった会員のみ適用
郵便振替	都度	希望者のみ
銀行引落	毎年10月27日	変更なし

【審議事項】

1. 新永年会員の件

氏名	所属(職名は申請時点)	備考
榎本 秀樹	神戸大・医・生理学・細胞生物学・神経分化・再生(教授)	永年会員推薦規約(1)
大保 和之	横浜市大・医・組織学(教授)	永年会員推薦規約(1)
岡部 繁男	東京大・医・神経細胞生物学(教授)	永年会員推薦規約(1)
海藤 俊行	鳥取大・医・解剖学(教授)	永年会員推薦規約(1)
島田 昌一	大阪大・医・解剖学・神経細胞生物学(教授)	永年会員推薦規約(1)
樋田 一徳	川崎医大・解剖学(教授)	永年会員推薦規約(1)

(五十音順)

一般社団法人日本解剖学会名誉会員・永年会員推薦規程

第4条 理事長は理事会の推薦に基づき、社員総会の議を経て、以下の者に永年会員の称号を贈ることができる。

- (1) 代議員として10年以上の経歴を有し、終身会費を納入した65歳以上の正会員。
- (2) 前項の規定に関わらず、本学会の発展のために永年の功労があったと認められる正会員。

2. 申請による新代議員の件

氏名	所属等(申請時)	入会年	推薦代議員
小川 寛之	獨協医大・先端医科学研究センター・分子病態(室長・准教授)	2004	徳田 信子
齋藤 正一郎	岐阜大・共同獣医・獣医解剖学(教授)	2000	江角 重行
佐々木 哲也	筑波大・医・解剖学・神経科学(准教授)	2015	武井 陽介
寺町 順平	岡山大・歯・口腔機能解剖学(准教授)	2014	沢 禎彦
中倉 敬	帝京大・医・解剖学(准教授)	2013	竹田 扇

(五十音順)

一般社団法人日本解剖学会代議員選出規程申し合わせ

当分の間、被選挙権者については下記のとおりとする。

- (1) 医学または歯学の大学等の解剖学教育・研究担当専任教授である正会員とする。但し、代議員が解剖学以外の教育・研究職等に転じた場合でも、代議員の資格が継続され、被選挙権も有するものとする。
- (2) 正会員として通算10年以上の経歴を有し、解剖学の教育・研究について、前号の者と同等以上の寄与をなしていると社員総会にて承認された者。
- (3) 65歳を超えて医学または歯学の大学等の解剖学教育・研究担当専任教授である場合は被選挙権を有する。
- (4) 欠員が生じている場合に限り、(1)の申請を行った正会員は常務理事会の決議を経て、社員総会へ報告、(2)の申請を行った正会員については理事会での決議を経て、社員総会に諮るものとする。

3. 2025（令和7）年度事業および業務監査報告の件

①学術集会開催状況

全国学術集会	会 頭	開催期日	会 場
第130回全国学術集会	渡辺雅彦（北海道大・医・解剖学・解剖発生学）	3月17日～19日	幕張メッセ

支部学術集会	大会長	開催期日	会 場
第71回東北・北海道支部連合	吉田成孝（旭川医大・解剖学・機能形態学）	9月20日～21日	旭川医科大学
第113回関東支部	大野伸彦（自治医大・解剖学・組織学）	8月30日	自治医科大学
第85回中部支部	瀬藤光利（浜松医大・解剖学・細胞生物学）	10月11日～12日	浜松医科大学
第101回近畿支部	北田容章（関西医大・解剖学）	11月15日	関西医科大学枚方キャンパス
第79回中国・四国支部	大内淑代（岡山大・医・細胞組織学）	10月18日～19日	岡山大学鹿田キャンパス
第81回九州支部	稲井哲一朗（福岡歯大・生体構造学・機能構造学）	10月18日	福岡歯科大学

②会議開催状況

会議名	開催期日	会 場	会議名	開催期日	会 場
常務理事会			理事会		
第1回	1月26日	A P 新橋	第1回	1月26日	A P 新橋
第2回	3月16日	国際会議場	第2回	3月12-14日	E-mail 持ち回り
第3回	3月16日	国際会議場	第3回	3月16日	国際会議場
第4回	6月8日	慶應義塾大学信濃町キャンパス	第4回	3月18日	幕張メッセ
第5回	9月27日	口腔保健協会	第5回	3月18日	幕張メッセ
第6回	11月29日	A P 新橋	第6回	7月2日	オンライン会議
			第7回	10月1-10日	E-mail 持ち回り
			第8回	11月29日	A P 新橋
定時社員総会	3月18日	幕張メッセ			

③学会誌の刊行状況

2025（令和7）年度編集委員会活動報告書

編集委員会
委員長 宮田卓樹

1. Anatomical Science International (ASI)編集・発刊報告
別記の如く予定通り刊行された（大島 勇人 委員長）

2. 解剖学雑誌 編集・発刊報告

1) 予定通り以下のごとく刊行された。

a)掲載論文数内訳

巻号	特集	寄書	新任教授紹介	追悼文	奨励賞受賞者紹介	その他	計
100巻1号	25	0	0	1	0	2	28
100巻2号	6	0	5	4	2	5	22

b)頁数総計

巻号	特集	寄書	新任教授紹介	追悼文	奨励賞受賞者紹介	その他	計
100巻1号	33	0	0	1	0	19	53
100巻2号	22	0	5	4	2	12	45

※支部学術集会抄録の掲載は学会ホームページに移行済み。

※その他：巻頭言

2) 各号の企画についてメール会議・オンライン会議を中心に議論を行った。
議事録は以下の通りである。

2025年度 第1回 解剖学雑誌 編集委員会

2025年3月17日（月）12:30～13:30 幕張メッセ展示ホール 主催者室8

出席者（敬称略） 市村 伊藤 樋田 宮田 和栗

欠席 天野 武内 大島（オブザーバー）

1. 自己紹介

2. 100巻1号（2025年3月発送）の内容（「日本の解剖学の過去・現在・未来について」や「解剖学者の肖像」座談会など）について確認した。

3. 100巻2号（2025年9月発行予定）について議論し、6月末までの原稿依頼で60ページ以内、内容としては、新編集委員長からの巻頭言、APPW2025合同シンポジウムから選んだトピック、懇話会日より、シリーズ継続中の「解剖学者の肖像」3名、奨励賞受賞者、新任教授挨拶、追悼記事に加えて、2025年3月に発出された「献体解剖倫理指針」と関連の記事などとする事で合意した。シンポジウムトピックスについては学会直後にオンライン会議を行い決定することとした。

4. 101巻1号（2026年3月発行予定）について議論し、「解剖学者の肖像」を継続する上で多視点推薦の観点から各地方支部会に候補者を挙げていただく案が出され賛同を得た。また、さまざまな学歴・職歴を持って解剖学会に加わるというケースを取り上げて多様な個性がどう日頃の研究・教育につながっているかご紹介いただく特集（例えば「私の解剖学」など）を考えてみてはとの意見や、99巻1号にてアンケート結果が披露された「若手の会」からメッセージ発出の希望がないかお尋ねしてはとの意見も出され、それぞれ検討を続けることで合意された。2025年7月頃を目安として開催予定のオンライン会議で内容の決定を目指すこととなった。

5. その他：ホームページと解剖学雑誌の連携のありようについて意見交換がなされた。もしアウトリーチ委員会でホームページリニューアルに向けた検討がなされる場合は情報を入手するとともに、解剖学雑誌コンテンツの活用法について（例えば「提言・指針」などは会員限定でなく一般に公開とできるかなど）合同で検討してはとの意見、また「解剖学者の肖像」は「解剖学ひろば」に向いているので掲載してはとの意見が出された。

2025年度 第2回 解剖学雑誌 編集委員会

2025年4月1日（火）14:00～15:00 ZOOM会議

参加者（敬称略） 天野 市村 伊藤 武内 樋田 宮田 和栗

（その後1週間程度で行われたメールでの追加的議論内容も以下に合わせて示す）

1. 自己紹介

2. 100巻2号（9月発行、50ページ程度で？）の内容として

特集 「生命を探る・解く・護る ～解剖・生理・薬理 合同大会」

解剖学会員以外の方にも原稿依頼する。

- ① 渡辺雅彦先生（北海道大）から「大会を開催して」
 - ② 2S02m 教育委員会合同プログラム モデル講義2 神経系 から 古田貴寛先生（大阪大歯学部：会員）
 - ③ 2S09a 神経イメージングの最先端 から 和氣弘明先生（名古屋大：会員）
 - ④ 2S12m オルガネラが織りなす多彩な生理学 から：池田英樹先生（岡山大：非会員）
 - ⑤ 2S13m 慢性腎臓病による生体システム変容 から 寺脇博之先生（帝京大：非会員）
 - ⑥ 3S12m 最新のイメージング技術が拓くメカノフィジオロジー研究 から 松本健郎先生（名古屋大工学部：非会員）
3. ホームページとのリンクについて：解剖学雑誌のバックナンバーの有効活用を目指す方向性を再確認。若手をもり立てる方向で協力（若手の会からの意見も求めていく）。
 4. 「解剖学者の肖像」について、地域性を考慮し各地方支部からの推薦も募ることを再確認した。
 5. 紙面のバランス：振り返り系と未来志向の紙面のバランスを取る。
 6. 原稿依頼の際、「掲載前提の依頼」をするが「査読あり」との体制で望むので業績提示の機会に「査読あり」とお示しただいてOKと説明。カテゴリーとして「原著論文」としてよいか（ご質問）には、内容によるかとは思われるが上記「特集」の場合「医中誌web」にもとづけばイエスと判断できると返答。しかし検討を続ける。

2025年度第3回編集委員会

2025.9.16 15:00~16:00 zoom

出席者（敬称略）：天野，市村，伊藤，武内，樋田，宮田，和栗

報告事項

1. 解剖学雑誌100巻2号について

著者校正が順次進行中

2. 解剖学雑誌101巻1号の内容に関連して（事前の決定に従って進行中のもの）
 - ・新教授紹介（岐阜大 江角先生，松戸歯科大 塩崎先生，産業医大 本田先生）
 - ・解剖学者の肖像（黒住一昌先生 [by 小澤一史先生]，佐野 豊先生 [by 河田光博先生]）
3. 「解剖学者の肖像」関連で 101巻2号以降に向けて（樋田委員による準備）
 - ・101巻2号に中井準之助先生（by 廣川信隆先生）
 - ・地方支部長に向けて，候補者ご推薦の依頼

審議事項

1. 解剖学雑誌101巻1号の内容（上記「報告事項2」以外のもの）
 - (1) 若手育成委員会（小田委員長）より「若手の悩みについてこの秋に実施予定のアンケート」の結果の掲載のご提案。審議の結果，掲載予定とすること決定。
 - (2) 「組織学」に関連して視点提供やその他のタイプの記事を出せるかについて，フリーディスカッションを行なった。病理学につながる・役立つ組織学の求めとそれを意識した教育，用語の国際的統一性の問題，バーチャルスライド，コアカリとの関係，細胞生物学的要素の扱い，総論・各論（欧州式）スタイルと融合（米国式）スタイル，肉眼解剖に比して大学ごとに教え方が異なる可能性，過去に行われた年会ワークショップ等からの掘り起こし，アンケート結果が残っていないか・依然有用か，など意見交換を行なった。さまざまな切り口から興味を持たれそうとの合意は得られた。複数原稿による小シリーズ化の可能性も少し含みおきつつ，引き続き検討を続けることになった。
 - (3) 歯科分野の会員各位にとっての解剖学（研究，教育，哲学，等々）についてご披露いただく案について，頭出しの意見交換を行ない，検討を続けることとなった。

2025年度第4回編集委員会

2025.12.1 17:30~18:00 zoom

出席者（敬称略）：天野，市村，伊藤，武内，樋田，宮田，和栗

報告事項

解剖学雑誌100巻2号について

- ・シリーズ「解剖学者の肖像」と，新任教授で予定される原稿は依頼手配済。
- ・「若手育成委員会」の小田賢幸委員長より「若手の悩みについてのアンケート」の結果とその分析に基づく提言を記した原稿（多様なキャリアが生きる解剖学分野へ～若手教員・研究者の育成と

制度整備に向けた提言～)を頂戴した。

- ・「若手研究者の会」から、会の活動紹介、若手側での分析などからなる原稿も入手予定。

審議事項

解剖学雑誌100巻2号について

- ・上記以外の企画について検討した結果、小田先生原稿のタイトルにある「多様なキャリア」に眼を向ける意図のもと、(1) キャリア年数・年齢層としては「若手研究者の会」と「若手育成委員会」の中間にあたるかと思われる「独立したての方」に歩みを(ご苦労話も含めて)ご紹介いただく、(2) 今春の第130回日本解剖学会全国学術集会において「肉眼解剖学トラベルアワード(日本篤志献体協会による献体協会賞)」を受賞された方に活動をご紹介いただく、(3) 第4回日本医学会連合 **Rising Star** リトリートに解剖学会からの被推薦者として参加された方に研究紹介やリトリートでの異分野交流等の体験をご紹介いただく、という3つの枠が提案・合意された。
- ・具体的には、(1) は池上浩司先生(広島大)と大崎雄樹先生(札幌医大)、(2) で矢口未輝さん(東邦大学)と坂本航大さん(新潟医療福祉大学)、(3) で井原大先生(滋賀医科大学)、堀江沙和先生(防衛医科大学校)、竹田育子先生(名古屋大学)に依頼することとなった。

補足

- ・会議後の依頼の結果、(1)～(3)いずれもご承諾を得た。

以上

2025(令和7)年度ASI編集委員会活動報告書

ASI編集委員会
委員長 大島 勇人

1. 2025年度のASI活動報告(出版実績、投稿論文数、過去10年間の被検索ダウンロード数、Impact Factor)

出版数は68編(2024年52編)で30%増加、投稿数494編(2024年305編)で60%増加、受理数62編(12.6%)、査読・改訂中数26編(5.3%)、リジェクト・取下げ406編(82.2%)であった。ジャーナルとしては健全な編集状況である。投稿数の増加の要因は、IFの増加による影響もあるが、大塚愛二元委員長による投稿数増加策、竹田 扇前委員長による特集号企画などの長年の施策が、解剖学分野におけるASIの認知度の向上に寄与している可能性がある。論文数は日本の雑誌の平均(1号15編程度)を超えているが、Reject率をもう少し下げて出版論文数を増加させても良いかもしれない。被検索ダウンロード数も順調に増加している。IFも1.7に増加している。

① 出版実績

2025年度の出版: Vol. 100-1 ~ Vol. 100-4 頁数: 664頁 [500頁]、論文数: 68 [52]

内訳は下表, [] 内は前年値

出版した論文数(カテゴリー毎)								
	Editorial	Commentary	Review article	Original article	Case report	Method paper	Letter to the Editor	計
100-1	1	0	3	6	4	0	1	15
100-2	1	0	2	7	4	0	0	14
100-3		0	1	9	3	0	0	13
100-4	2	0	8	5	0	11	0	26

② 投稿論文数

カテゴリ毎の投稿数、受理数 (2025年1月1日～12月31日)								
カテゴリ	Original Article	Review Article	Case Report	Letter to the Editor	Method Paper	Commentary	Book Review	計
全投稿数	331	45	88	7	20	2	1	494
受理	25	14	7	3	13			62
査読中、改訂中	17	2	2	2	1	2		26
リジェクト、取下げ	289	29	79	2	6		1	406

③ 過去10年間の被検索ダウンロード数

Service	2016 Total	2017 Total	2018 Total	2019 Total	2020 Total	2021 Total	2022 Total	2023 Total	2024 Total	2025 Total
Abstracts	20,407	11,459	27,466	82,550	109,791	81,589	85,901	101,489	114,423	107,525
Full-text Download	41,865	45,518	44,129	52,171	70,391	92,611	114,946	154,160	175,456	255,366

④ Impact Factor

	2007	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
IF	1.161	0.827	0.861	0.961	1.330	1.566	1.512	1.741	1.693	1.2	1.2	1.7

2. ASIオンライン編集委員会について

2月にASIオンライン編集委員会を実施する予定であり、候補日を2月16日、19日、20日、26日、27日の9-11時、13-15時、15-17時とする。日程調整は大島委員長が行う。

3. ASIのOA化について

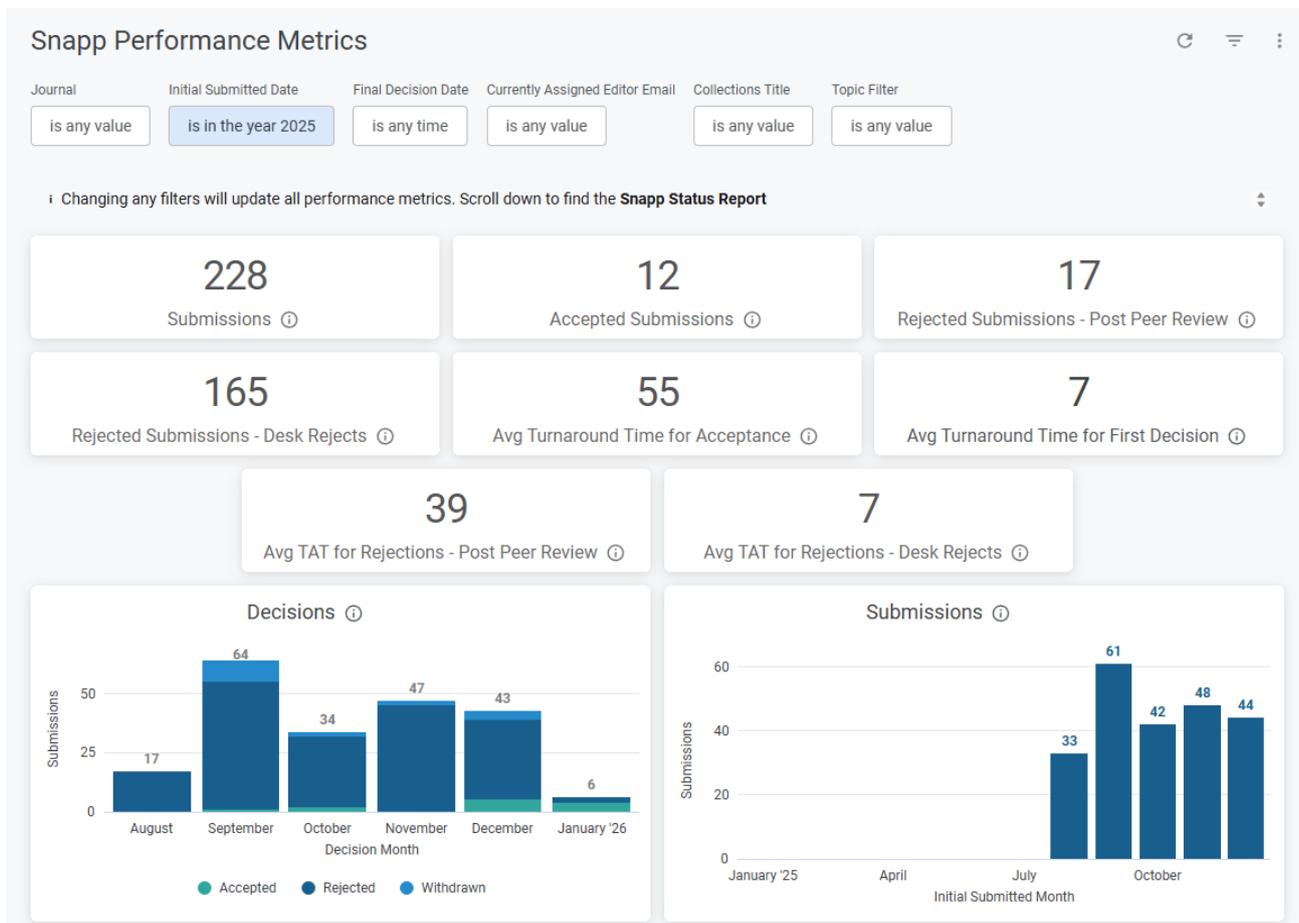
OAについては、大学との間で転換契約が進んでいる。APCは現在日米で3,590ドルであり、学会はロイヤリティとして8%受け取っている。学会と出版社の契約は、電子版0円、冊子版3,200円/冊（税別）であるが、今後の会員向けの冊子購読を取り止めることに伴い、冊子版は0円に近くなる予定である。招待論文のAPCを学会が一部（または全部）負担することは可能であるが、著者からは投稿料や印刷料を取らないのが出版社のポリシーである。

4. SNAPPの仕様について

SNAPPでは、Editorの専門領域と投稿論文の内容をマッチングすることが出来ない仕様なので、EiCがマニュアルでEditorを選定する必要がある。Editorの専門領域を明確にすること、2025年の投稿論文を精査して専門分野のEditor数を適正化する必要がある。また、SNAPPでは、Handling Editorが自分のroleをunassignできてしまい、度々誤った操作が発生したので、システムチームにunassignはEiCのみの権限とする要望を出している。

5. 8月から運用を開始したSNAPPの2025年Performance Metrics

Acceptまでの編集期間が55日（Revision期間除く）、First Decisionまでの期間が7日と他誌と比較して早い。Editorの迅速な編集業務に起因している。尚、Desk Rejectionまでの期間が7日であるが、Post Peer Review Rejectionが39日と少し長くなっている。Editor Submissions OverviewではHandling EditorをAssignする前に146編の論文をDesk Rejectionしている。各Editorに均等にAssignしたいが、専門領域を加味するとある程度の偏りを避け



がたい状況である。

6. 問題点

2025年に査読システムがEditorial ManagerからSNAPPに移行する大きな転換があったのに加え、編集委員長の交代、投稿数の60%増加などに起因してEiCの能力が追いつかず、特集号の企画が滞っている。今後は、スムーズなAssignなどのEiC業務の効率化を図り、特集号の企画、学会員からの投稿増加などASIの質的向上の施策が必要である。

以上

④委員会報告

2025（令和7）年度認定解剖組織技術者資格審査委員会活動報告書

認定解剖組織技術者資格審査委員会
委員長 上条 桂樹

2025（令和7）年度の活動状況について、下記の通りご報告申し上げます。

1. 認定解剖及び細胞組織技術者試験実施状況

審査の結果、以下の者が合格と認定された

認定一級解剖技術者

大塚 洋輔（東北大学大学院医学系研究科・医学部器官解剖学分野）
木下 昇吾（東北大学大学院歯学研究科・歯学部口腔器官解剖学分野）
中井 吉保（大阪大学大学院医学系研究科細胞生物学）
檜崎 正博（岡山大学総合技術部医学系技術課人体構成学分野）
柳澤 一裕（藤田医科大学医学部基盤医学講座解剖生理学）

認定一級細胞組織技術者

大塚 洋輔（東北大学大学院医学系研究科・医学部器官解剖学分野）
中井 吉保（大阪大学大学院医学系研究科細胞生物学）
檜崎 正博（岡山大学総合技術部医学系技術課人体構成学分野）

認定二級解剖技術者

岩村 広太（札幌医科大学医学部解剖学講座細胞組織学分野）
北澤 智子（島根大学医学部解剖学講座 神経科学）
木村 清二（京都大学大学院医学研究科附属総合解剖センター）
黒島 有香（金沢医科大学 アナトミーセンター）
鈴木 聡子（福島県立医科大学医学部神経解剖・発生学講座）
長井 秀樹（京都大学大学院医学研究科附属総合解剖センター）
山本凜太郎（東京科学大学リサーチインフラ・マネジメント機構 臨床解剖学分野）
吉田 光輝（札幌医科大学医学部解剖学講座機能構造学分野）

認定二級細胞組織技術者

長井 秀樹（京都大学大学院医学研究科附属総合解剖センター）
山本凜太郎（東京科学大学リサーチインフラ・マネジメント機構 臨床解剖学分野）

2. その他

- ・認定一級の問題作成方針の検討（選択・記述問題のバランス、記述問題・口頭試問の採点基準など）を進める
- ・第130回日本解剖学会総会・全国学術集会で、解剖・組織技術研究会との共催で解剖・組織技術研究会 第26回研修会を開催した
- ・解剖・組織技術研究会と連携し、認定解剖組織技術者資格が技術職員のキャリア形成に役立つ方策について検討する

以上

2025（令和7）年度解剖体委員会活動報告書

解剖体委員会
委員長 川口綾乃

（1）第130回全国学術集会（APPW2025）において、遺体を用いた外科手技研修（cadaver surgical training、以下CST）に関するシンポジウム「サステナブルなCST実現のための多角的アプローチ」を開催した。

（2）第131回全国学術集会において、シンポジウム「サステナブルなCST実現のための多角的アプローチ part2」を企画した。本シンポジウムでは、CST実施に関係する設備・運営資金に加え、献体および献体業務に関わる職員、企画運営にあたる解剖系・外科系教職員の役割を整理するとともに、「献体解剖倫理指針」を踏まえた倫理と行動規範の在り方を含め、CSTを持続的に実施するための課題と方策を多角的に議論し、共有する。

以上

2025（令和7）年度解剖学用語委員会活動報告書

解剖学用語委員会
委員長 竹田 扇

1. 運営体制に関して
 - 1) 今年度はこれまでに委員会を3回実施した（1回は対面開催、2回はメール審議）。
 - 2) 今年度のタスクとして①ICD-11日本語版への対応（下記3）、②組織学用語の更新（下記4）を決定した。
 - 3) 2025年度より日本医学会分科会用語委員会委員を竹田扇が、代委員を山崎美和子委員が務めることとなった。
2. 2026年度日本解剖学会全国学術集会での委員会企画シンポジウムに関して
 - 1) 秋田恵一委員の提案により「解剖学用語をどう整備し、運用するか：成書における位置づけと今後の課題」を企画提案し採択された。秋田委員と竹田が座長を務め、以下の陣容でシンポジウムを開催することとした。秋田恵一（東京科学大）、山田重人（京都大）、飯塚真一（エルゼビアジャパン）、郷間雅俊（法政大学出版局）、竹田扇（帝京大） [2026年3月24日 15:10より開催予定]
3. ICD-11に関して
 - 1) 現在改訂中の日本語版ICD-11に関して厚生労働省から解剖学会担当の用語に関して2度にわたる諮問を受け、委員全員で分担し約6,000語の用語に関する確認と見直しを行なって答申した。
4. 組織学用語の更新に関して
学会HPに掲載されている組織学用語の見直しを行い、次回の委員会で審議することとした。ICD-11の業務が概ね終了したので、これから取り掛かる予定。

以上全て敬称略

以上

2025（令和7）年度海外交流委員会活動報告書

海外交流委員会
委員長 山岸 覚

1. 2025年は2年に1度の韓国への演者派遣の年となることから、2名の演者を派遣した。
The 75th Annual Meeting of the Korean Association of Anatomists
場所：The K-Hotel in Gyeongju（慶州）
会期：2025年10/15(水)～10/17(金)
 - ・井原大（滋賀医科大学）
 - ・孫在隣（大阪大学歯学部）
2. 第131回日本解剖学会・全国学術集会 KAA-JAA合同シンポジウムの演者7名を決定した。
場所：東京慈恵会医科大学
日程：2026年3月25日15:20～17:10
 - ・服部祐季（名古屋大学医学部）
 - ・長内康幸（自治医科大学医学部）
 - ・若山勇紀（浜松医科大学医学部）
 - ・堤友美（兵庫医科大学医学部）
 - ・Seongju Lee（College of Medicine, Inha University, Incheon, Korea）
 - ・Hyun Jung Kim（College of Medicine, Korea University, Korea）
 - ・Kyung Ah Han（College of Medicine, Chungnam National University, Korea）
3. 第12回アジア太平洋国際解剖学会議（APICA2027）において、委員長の山岸が組織委員を務めることとなった。

以上

2025（令和7）年度教育委員会活動報告書

委員

飯野 哲（福井大・医）、井関 祥子（東京科学大・歯）、江角 重行（岐阜大・医）、城戸 瑞穂（佐賀大・医）（委員長）、古田 貴寛（大阪大・歯）、八木 秀司（兵庫医大）、山崎 美和子（北海道大・医）吉田 成孝（旭川医大）

第130回全国学術集会（AAPW2025）において3学会合同教育プログラムにてモデル講義を開催

日本解剖学会教育委員会・日本生理学会教育委員会・日本薬理学会企画教育委員会の合同開催としてモデル講義を行った。

教育委員会合同教育プログラム モデル講義1 循環系「刺激伝達系」

教育委員会合同教育プログラムモデル講義2 神経系「体性神経系」では古田貴寛委員が講師として体性感覚の神経解剖」の講義を行い、山崎委員が座長を務めた。

解剖学会認定教員（仮名）についての議論を開始

2023年2月に学会から発出した「健全な解剖学教育・研究の継続のために－解剖体取扱い不適切事案の再発防止に向けて－日本解剖学会・篤志解剖全国連合会」に述べている課題の継続の現状および2023年教育委員会実施の教育に関する調査結果（解剖学会Webサイト掲載および解剖学雑誌掲載）、を受けて解剖学教育の質の維持と持続性について議論した。かねてより委員会で話題となりながら実現に至っていない解剖学会が認める教員の質の担保に向け、解剖学会認定教員（仮名）の制度設計の議論を始めることとした。他学会等の制度の情報収集を進めるとともに、死体解剖保存法では担保されていない解剖学の教員として備えるべき資質等についての議論を進めることとなった。

日本解剖学会会員を取り巻く教育環境オンライン調査（会員全員対象）2025の作成

上記の議論を進めるにあたり、会員を取り巻く環境の現状把握のため、オンライン調査を作成した。2025年11月29日理事会審議を経て会員に向けた調査実施準備中である。2026年に調査を実施し、結

果の一部については、第131回全国学術集会教育委員会指定シンポジウムにて発表する予定である。

第131回全国学術集会にて教育委員会指定シンポジウムの企画

第131回日本解剖学会全国学術集会において、教育委員会指定シンポジウム「解剖学・組織学教育の質の持続性を考える」を2026年3月25日（水）15：20～17：10で開催予定

プログラム：

竹田 扇先生「解剖学の教育者とは：変化への適応と多様性」

和足孝之先生「臨床教育現場から解剖学教育への期待」

小川名美先生「メディカル・コメディカルにおける解剖学教育実践の取り組みと課題」

奥村哲先生「日本生理学会認定生理学エデュケーター制度の10年を振り返る」

江角重行先生「持続性のある質の高い教育・研究環境を目指して～アンケート調査から見えてきたこと」

委員会の開催

1. 第1回委員会：2025年3月19日（火）12：40～13：30 APPW2025（第130回日本解剖学会総会・全国学術集会 第102回日本生理学会大会 第98回日本薬理学会年会）会期中 幕張メッセ 国際会議場103にて

- 2025年度の活動について

2026年学術総会においてシンポジウムを開催

毎年、教育委員会主催のシンポジウムを開催しており、次回の開催について議論し、大会主催のシンポジウム企画についての情報を収集して重複と受け取られることのない、また全体で教育の比重のバランスを考慮して提案することとした。理事会から開催校へ情報共有の依頼を行い共有する予定となった。

- 解剖学会認定教員（仮名）についての議論開始を決定

2. 第2回委員会：2025年10月7日（火）13：00～15：30 Zoom

- 解剖学会認定教員制度策定に向けた調査内容（会員対象）検討
- 2023年実施の教育アンケート（講座対象）の定点調査化の検討
- 解剖学会認定教員制度策定に向けた行程についての意見交換
- 解剖学会認定教員（仮名）の定義についての議論
- 解剖学雑誌への寄稿 第131回学術集会指定シンポジウム記事の掲載について

3. 第3回委員会：2025年10月24日（火）13：00～15：00 Zoom

- 日本解剖学会会員を取り巻く教育環境オンライン調査の方法や質問事項その他の検討

4. 第3回委員会：2025年11月6日（火）11：00～12：30 Zoom

- 日本解剖学会会員を取り巻く教育環境オンライン調査（学会会員全員対象）2025の内容について議論

今後の活動予定

- 日本解剖学会会員を取り巻く教育環境オンライン調査（学会会員全員対象）2026の実施および集計と解析
- 第131回全国学術集会指定シンポジウムの開催
- 日本解剖学会会員を取り巻く教育環境オンライン調査（学会会員全員対象）2026の結果に基づいた議論を経て解剖学会認定教員（仮名）の制度設計について議論
- 指定シンポジウムについて解剖学雑誌への投稿
- その他

以上

1. 若手支援シンポジウムの企画・実施

第131回日本解剖学会全国学術集会において、若手育成委員会と若手研究者の会の共催により、以下の若手支援シンポジウムを開催しました。

- シンポジウム名：
「若手のキャリアの悩みに寄り添う：課題と解決策をつなぐ対話の場」
- 開催日時：
2025年3月25日（火） 9:00～10:50（A会場）
- 趣旨：
若手研究者が直面するキャリア・教育・研究環境に関する悩みや不安について、実態を把握するとともに、それに対する対策・助言を共有し、世代を超えた対話の場を提供することを目的としています。
- オーガナイザー：柏木有太郎（東京大学、若手研究者の会）、小田賢幸（山梨大学）
- パネリスト：仲嶋一範 理事長、池上浩司 常務理事

2. アンケート調査の実施

上記シンポジウムの準備として、以下2種のアンケートを実施しました。

(1) 若手研究者（助教・講師・大学院生等）を対象としたアンケート

実施主体：若手研究者の会

目的：キャリア形成、研究・教育・家庭の両立、実習業務負担などに関する悩みの実態把握

(2) 講座運営・指導的立場の教員（教授・准教授等）を対象としたアンケート

実施主体：若手育成委員会

目的：若手支援に関する制度的課題、教育負担の現状、死体解剖資格の運用状況などについての意見収集

いずれのアンケートも、結果をシンポジウムにて発表しパネルディスカッションに活用される予定です。またアンケート結果および提言を解剖学雑誌に寄稿予定です。

以上、ご報告申し上げます。

以上

2025（令和7）年度アウトリーチ委員会活動報告

アウトリーチ委員会

委員長 神野尚三

仲嶋一範理事長の指示を受け、アウトリーチ委員会では、学会ホームページ（以下、HP）の改修について検討を行った。まず、現行HPの構成および運用状況に関して詳細な検証を実施したところ、複数の重大な課題が明らかとなった。

具体的には、①テキスト情報が中心で視認性に乏しく、利用者にとって情報把握が困難であること、②情報構造の階層が深く、目的とする記事へ迅速に到達しにくいこと、③学会員管理機能を備えておらず、会員・非会員による閲覧権限の制御ができないこと、などが挙げられた。

これらの課題は、単なるデザイン上の問題にとどまらず、学会活動の発信力や情報管理の観点からも看過できない、運用面および機能面における構造的な問題であると考えられた。このため、HP作成を専門とする業者から、HPの全面的な改修に向けた見積を取得し、その内容を理事会に報告した。

以上

2025（令和7）年度学術委員会活動報告書

学術委員会
委員長 若山 友彦

1. 第131回日本解剖学会総会・全国学術集会にて、以下の委員会主催シンポジウムを開催する。

○顕微鏡学会連携シンポジウム

「クライオ電子顕微鏡が切り拓く生命科学の新展開」

オーガナイザー：和栗 聡（福島県立医科大学）、今崎 剛（神戸大学）

演者：

- 小田 賢幸（山梨大学）「色素拡散症候群の病態を構造から解明する」
- 高崎 寛子（大阪大学）「クライオ技術を駆使したin situタンパク質構造解析」
- 今崎 剛（神戸大学）「微小管ネットワーク形成機構の解析」
- 野田 岳志（京都大学）「エボラウイルスの細胞内増殖機構の解析」
- 大戸 梅治（東京大学）「B型肝炎ウイルス侵入受容体の構造」

○日本生理学会及び日本薬理学会連携シンポジウム

「精神疾患・発達障害への多角的研究アプローチ」

オーガナイザー：深澤 有吾（福井大学）・岩崎 広英（群馬大学）

演者：

- 前川 素子（東北大学）「脂肪酸シグナリングと精神疾患」
- 久保 健一郎（東京慈恵会医科大学）「統合失調症、発達障害と神経発生」
- 一ノ瀬 聡太郎（群馬大学）「機械学習的アプローチによる自閉スペクトラム症の個体差解析」
- 石田 綾（理研CBS）「Rett症候群とシナプスリモデリング」
- 高雄 啓三（富山大学）「精神疾患・発達障害モデルマウスの行動解析」

2. 第103回日本生理学会大会にて、以下の日本解剖学会連携シンポジウムを開催する。

「上皮・血管内皮がつくる生体バリアの研究の最前線」

オーガナイザー：若山 友彦（熊本大学）、古瀬 幹夫（生理学研究所）

演者：

- 菅原 太一（熊本大学）「血液精巣関門におけるクロードイン11の役割」
- 黒澤 俊樹（帝京大学）「iPS細胞を用いたヒト血液脳関門」
- 橋本 洋佑（広島大学）「血液脳関門とクロードイン5」
- 古瀬 幹夫（生理学研究所）「トリセルラータイトジャンクションの分子機構」

以上

2025（令和7）年度医療専門職教育委員会活動報告書

医療専門職教育委員会
委員長 渡部 功一

第131回日本解剖学会総会・全国学術集会にて下記委員会企画シンポジウムを開催予定である。

「獣医学領域における解剖学教育について」

日時：3月26日（木）9：00～10：50

演者：

- 斎藤正一郎（岐阜大学応用生物科学部）
- 松井利康（岡山理科大学獣医学部）
- 山本欣郎（岩手大学農学部）

オーガナイザー：

- 渡部功一（久留米大学医学部解剖学講座肉眼・臨床解剖部門）
- 横山拓矢（岩手大学農学部共同獣医学科）

以上

2025（令和7）年度倫理・利益相反委員会活動報告書

委員長 北田容章

委員 柳井章江、稲井哲一朗、板東良雄、
竹林浩秀、徳田信子

- (1) 2025年3月に「献体解剖倫理指針」が日本解剖学会・篤志解剖全国連合会・日本篤志献体協会の共同で策定・発表されたことを受け、北田委員長が「献体解剖に関する倫理指針の策定」（解剖学雑誌 第100巻2号 84-86頁 2025年）として解剖学雑誌への寄稿文を投稿した。
- (2) 第131回日本解剖学会総会・全国学術集会で開催される解剖体委員会主催シンポジウム「サステイナブルなCST実現のための多角的アプローチ part2」で、北田委員長が「CSTの基盤となる法的論拠と遵守されるべき倫理及び行動規範」のタイトルの下、発表する。
- (3) 2025年度活動報告において、2024年度に行った「ご遺体を用いた人体構造に関する研究および手術手技研修に関する倫理審査等の手続きに関するアンケート」の結果に基づき、今後、ご遺体の管理に第一義的な責任を持つ解剖学教室が拠り所とできるような、倫理審査に関するガイドライン・指針を策定する必要があるとしたが、近年、ご遺体を用いた教育・研究環境は変化し続けている。とりわけ、本邦では各大学がご遺体を用いた手術手技研修（CST: Cadaver Surgical Training）を執り行う場合は「臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン」（以下、ガイドライン）に則って行うことが求められるが、研修終了後は日本外科学会内設置の「CST推進委員会」に報告を行うこととされている。このCST推進委員会は、日本外科学会主導の下で設立される予定の「一般社団法人日本CST監理・支援機構（または協会）」にその業務が移行されることとなっている。これに伴い、ガイドラインの一部改訂の可能性も想定される。この流れを踏まえ、CST推進委員会業務の新法人への移行を待ってから、倫理審査に関するガイドライン・指針の策定を進めることとした。

以上

2025（令和7）年度ダイバーシティ推進委員会活動報告書

ダイバーシティ推進委員会
委員長 藤田 幸

1. APPW2025 第130 回日本解剖学会総会・全国学術集会・第102 回日本生理学会大会・第98回日本薬理学会年会 合同大会 における合同企画の報告
解剖学会、生理学会、薬理学会の3学会合同で、「研究者の水漏れパイプ問題」と題した男女共同参画企画を開催しました。解剖学会からは服部祐季先生が発表されました。特に今回は3学会合同であり、立ち見があるほどの聴衆で、活発な議論がなされました。
2. 第131回全国学術集会ダイバーシティ推進委員会企画について
3月18日（火）12:40から、ダイバーシティ推進委員会を開催し、企画内容について議論しました。また、後日、メール審議を実施しました。
 - 1) 形式について
シンポジウム、またはランチョン形式の選択肢のうち、ランチョン形式の方が多くの集客を望める可能性があり、第一候補はランチョンとして検討を進めることとなりました。
 - 2) スピーカーについて
東京大学 星野歩子先生、に講演の可能性をお伺いすることとなりました。講演内容については、海外と日本の設備面やサポート面の違いを中心に進める予定となりました。また、メール審議を行い、東北大学 佐々木成江先生にもご講演をお願いし、約30分、2名でのランチョンセミナーの構成となりました。メール審議の中で、竹村浩昌先生（生理学研究所）、晶子先生（藤田医科大学）ご夫妻を第2候補とさせていただきます。
3月24日（火）12:00-13:00 B会場でのシンポジウムが決定しました。演者は、星野先生、佐々木先生に決まりました。
3. その他
学会間や大学間でのダイバーシティの取り組みの違いについて、意見交換をしました。

以上

2025（令和7）年度若手研究者の会 活動報告

若手研究者の会

運営委員 室生 暁、柏木 有太郎、服部 祐季、井原 大、若山 勇紀

2025年度の活動について：以下を行った

- ・第130回日本解剖学会総会・全国学術集会（APPW2025）時に以下を開催
- ① 解剖学会若手研究者の会、生理学会若手の会、薬理学会次世代の会の3会合同のシンポジウム「生命活動を支える脳神経系の機能・構造・分子メカニズム」（神経系）および「先端技術が切り拓く解剖学・生理学・薬理学技術系」（技術系）
- ② 若手会員（学生・ポスドク）と大学等研究室や製薬企業等とのマッチングイベント（薬理学会、生理学会と合同開催）
- ③ 若手と学生の研究交流会（解剖学会若手研究者の会、生理学会若手の会、薬理学会次世代の会の3会合同）
- ④ ランチョンセミナー
- ⑤ 若手研究者の会総会
 - ・人体解剖セミナーや人体解剖実習への参加費旅費支援事業 助成者5名
 - ・教育・研究交流掲示板の運営
 - ・解剖学雑誌100巻1号に解剖セミナーの支援者の参加報告を掲載
 - ・解剖学雑誌100巻2号に活動報告を掲載
 - ・ホームページリニューアルに関するアンケートを実施
 - ・生理学会、薬理学会、薬学会の各若手の会との連携強化

2026年度の活動について：以下を予定している。

- ・解剖学雑誌への活動報告掲載（毎号2ページ）
- ・人体解剖セミナーや人体解剖実習への参加費旅費支援事業（継続）
- ・教育・研究交流掲示板の運営（継続）
- ・第131回日本解剖学会総会・全国学術集会での企画
- ① 若手育成委員会との合同シンポジウム「若手のキャリアの悩みに寄り添う：課題と解決策をつなぐ対話の場」
- ② 春の学校 若手と学生の研究交流会
- ③ ランチョンセミナー
- ④ 若手研究者の会総会

以上

⑤研究の奨励及び業績の奨励

2025（令和7）年度日本解剖学会奨励賞受賞者

氏 名	申 請 課 題	該当分野	所 属
おののうちきわ 尾之内佐和	マウス十二指腸形態形成における腸管および腸間膜の相互作用について	発生学	岐阜大・共同獣医・獣医解剖学
なかざと りょうた 中里 亮太	一次線毛の形態・機能解析による概日リズム制御機構の解明	細胞生物学	広島大・医・解剖学・発生生物学
ながさか あらた 長坂 新	口蓋突起挙上における細胞形態および動態の3次元解析	発生学	明海大・歯・形態機能成育学・組織学

（五十音順）

2025（令和7）年度日本解剖学会認定技術者功労賞受賞者

氏 名	所 属
	該当者なし

（五十音順）

⑥内外学術団体との協力ならびに連絡

後 援	・形態科学シンポジウム ・第44回名古屋大学人体解剖トレーニングセミナー
協 賛	・第35回顕微鏡サマースクール ・第50回レーザ顕微鏡研究会・第23回医用分光学研究会年会合同研究会・シンポジウム ・日本顕微鏡学会第82回学術講演会

(承諾順)

- 1) 生物科学学会連合、日本脳科学関連学会連合、及び、男女共同参画学協会連絡会における活動協力(意見交換、声明発表、機構強化について)
- 2) 基礎医学系学会(生理学会、薬理学会)、日本顕微鏡学会との意見交流、声明発表
- 3) 日本外科学会CST推進委員会における活動協力(委員派遣等)
- 4) 日本医学会、日本医学会連合における活動協力
- 5) KAA(The Korean Association of Anatomists) との学術交流
- 6) APICA(Asian Pacific International Congress of Anatomists)
第12回APICA開催(日本、2027年)に向けての調整と協力
- 7) 欧米解剖学会との交流
アメリカ解剖学会とはAPICAの枠組みの中で行う。Anatomische Gesellschaftとの交流は継続

⑦技術者認定

1級技術者合格者

氏 名	所 属	種 別
大塚 洋輔	東北大・医・器官解剖学	解剖・細胞組織
木下 昇吾	東北大・歯・口腔器官解剖学	解剖
中井 吉保	大阪大・医・細胞生物学	解剖・細胞組織
榑崎 正博	岡山大・医・人体構成学	解剖・細胞組織
柳澤 一裕	藤田医大・医・基盤医学・解剖生理学	解剖

2級技術者合格者

氏 名	所 属	種 別
岩村 広太	札幌医大・解剖学・細胞組織学	解剖
北澤 智子	島根大・医・解剖学・神経科学	解剖
木村 清二	京都大・医・附属総合解剖センター	解剖
黒島 有香	金沢医大・アナトミーセンター	解剖
鈴木 聡子	福島県医大・神経解剖・発生学	解剖
長井 秀樹	京都大・医・附属総合解剖センター	解剖・細胞組織
山本凜太郎	東京科学大・リサーチインフラ・マネジメント機構・臨床解剖学分野	解剖・細胞組織
吉田 光輝	札幌医大・解剖学・機能構造学	解剖

(五十音順)

技術者累計	1級 (累計)	2級 (累計)
解剖技術者	5 (81)	8 (252)
細胞組織技術者	3 (11+※1) ※1: 旧・組織30、旧特殊組織7	2 (32+※2) ※2: 旧・組織171、旧・特殊組織66

正味財産増減計算書

令和 7 年 1 月 1 日から令和 7 年 12 月 31 日まで

一般社団法人日本解剖学会

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	21,172	340	20,832
特定資産運用益	16,062	1,058	15,004
名簿作成積立資産受取利息	929	41	888
特別事業積立資産積立利息	15,133	1,017	14,116
受取入金	135,000	161,000	△ 26,000
受取入金	135,000	161,000	△ 26,000
受取会費	20,392,000	19,175,000	1,217,000
正会員受取会費	13,500,000	12,718,000	782,000
代議員会員受取会費	3,457,000	3,230,000	227,000
終身会員受取会費	1,560,000	1,320,000	240,000
学生会員受取会費	1,053,000	957,000	96,000
団体会員受取会費	462,000	510,000	△ 48,000
賛助会員受取会費	360,000	440,000	△ 80,000
事業収益	36,790,649	30,318,801	6,471,848
全国学術集会収益	32,671,786	24,602,965	8,068,821
支部学術集会収益	3,199,393	3,642,016	△ 442,623
会誌等頒布収益	125,870	1,307,820	△ 1,181,950
広告掲載料収益	655,600	693,000	△ 37,400
技術者審査・登録料収益	138,000	73,000	65,000
雑収益	128,220	101,875	26,345
受取利息	23,444	1,375	22,069
その他雑収益	104,776	100,500	4,276
経常収益計	57,483,103	49,758,074	7,725,029
(2) 経常費用			
事業費	54,337,314	47,302,164	7,035,150
全国学術集会	33,671,786	25,125,070	8,546,716
支部学術集会	3,669,022	4,276,614	△ 607,592
会誌製作費	7,016,196	7,295,024	△ 278,828
会誌発送費	1,284,192	1,221,326	62,866
奨励賞・功労賞関係費	126,291	130,350	△ 4,059
技術者認定業務費	52,360	105,780	△ 53,420
学術会議関連シンポジウム費	100,000	0	100,000
委員会運営費	531,947	1,177,192	△ 645,245
日本篤志献体協会	100,000	100,000	0
生物化学学会連合会費	50,000	50,000	0
男女共同参画学協会連合会費	15,000	15,000	0
脳科学関連学会連合会費	60,000	60,000	0
日本医学会連合会費	135,750	135,500	250
若手研究者の会運営費	447,543	422,141	25,402
ホームページ運営費	481,734	549,900	△ 68,166
会議費	51,138	46,776	4,362
旅費交通費	138,870	457,622	△ 318,752
印刷費	855,174	602,827	252,347
通信費	5,005	990	4,015

事務委託費	4,472,160	4,194,960	277,200
諸謝金	247,500	247,500	0
若手育成支援	589,096	470,000	119,096
国際交流関係費	236,550	617,592	△ 381,042
管理費	4,278,403	2,954,768	1,323,635
ホームページ運営費	53,526	61,150	△ 7,624
会議費	1,953,060	1,249,859	703,201
旅費交通費	2,039	0	2,039
印刷費	95,019	66,981	28,038
通信費	602,882	595,130	7,752
事務委託費	638,888	251,200	387,688
諸謝金	80,370	68,083	12,287
支払報酬	462,000	462,000	0
支払手数料	105,002	47,296	57,706
租税公課	70,000	70,000	0
雑費	20,471	83,069	△ 62,598
消耗品費	195,146	0	195,146
経常費用計	58,615,717	50,256,932	8,358,785
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,132,614	△ 498,858	△ 633,756
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 1,132,614	△ 498,858	△ 633,756
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,132,614	△ 498,858	△ 633,756
一般正味財産期首残高	94,278,491	94,777,349	△ 498,858
一般正味財産期末残高	93,145,877	94,278,491	△ 1,132,614
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	93,145,877	94,278,491	△ 1,132,614

貸借対照表

令和 7 年 12 月 31 日現在

一般社団法人日本解剖学会

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	44,811,295	46,691,325	△ 1,880,030
未収金	0	993	△ 993
貯蔵品	330,578	389,659	△ 59,081
前払費用	1,002,750	1,002,750	0
流動資産合計	46,144,623	48,084,727	△ 1,940,104
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	20,000,000	20,000,000	0
基本財産合計	20,000,000	20,000,000	0
(2) 特定資産			
名簿作成積立資産	896,329	695,400	200,929
特定事業積立資産	26,418,306	26,127,435	290,871
特定資産合計	27,314,635	26,822,835	491,800
固定資産合計	47,314,635	46,822,835	491,800
資産合計	93,459,258	94,907,562	△ 1,448,304
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	106,731	158,571	△ 51,840
前受金	144,150	418,000	△ 273,850
未払法人税等	52,500	52,500	0
流動負債合計	303,381	629,071	△ 325,690
2. 固定負債			
長期前受金	10,000	0	10,000
固定負債合計	10,000	0	10,000
負債合計	313,381	629,071	△ 315,690
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	20,000,000	20,000,000	0
(うち特定資産への充当額)	27,314,635	26,822,835	491,800
正味財産合計	93,145,877	94,278,491	△ 1,132,614
負債及び正味財産合計	93,459,258	94,907,562	△ 1,448,304

財務諸表に対する注記

一般社団法人日本解剖学会

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	20,000,000	21,172	21,172	20,000,000
小 計	20,000,000	21,172	21,172	20,000,000
特定資産				
名簿作成積立資産	695,400	200,929	0	896,329
特別事業積立資産	26,127,435	1,335,133	1,044,262	26,418,306
小 計	26,822,835	1,536,062	1,044,262	27,314,635
合 計	46,822,835	1,557,234	1,065,434	47,314,635

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	20,000,000		(20,000,000)	
小 計	20,000,000		(20,000,000)	
特定資産				
名簿作成積立資産	896,329		(896,329)	
特別事業積立資産	26,418,306		(26,418,306)	
小 計	27,314,635		(27,314,635)	
合 計	47,314,635		(47,314,635)	

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記2. に記載しているため省略する。

財産目録

令和 7 年 12 月 31 日現在

一般社団法人日本解剖学会

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物 量等	使用目的等	金 額
(流動資産)	預金	普通預金	三井住友銀行本店営業部No.4616526	44,811,295
	貯蔵品 前払費用		三菱 UFJ 銀行駒込支店No.1178366 三菱 UFJ 銀行駒込支店No.0511130 ゆうちょ銀行振替口座 00160-6-78262 奨励賞・功労賞メダル 第 131 回総会全国学術集会 一般財団法人口腔保健協会	1,555,092 16,156,005 2,779,042 24,321,156 330,578 1,002,750 1,000,000 2,750
流動資産合計				46,144,623
(固定資産) 基本財産	定期預金	定期預金	三井住友信託銀行本店営業部No. 96426950-01	20,000,000
	特定資産		普通預金	三菱 UFJ 銀行駒込支店No.0066656
	名簿作成積 立資産	普通預金	三菱 UFJ 銀行駒込支店No.0100293	26,418,306
	特定事業積 立資産	普通預金 普通預金	三菱 UFJ 銀行駒込支店No.00170-6-73195 ゆうちょ銀行振替口座 00170-6-73195	12,145,690 14,272,616
固定資産合計				47,314,635
資産合計				93,459,258
(流動負債)	未払金		一般財団法人口腔保健協会 その他諸口	106,731
	前受金 未払法人税 等		令和 8 年度入会金、会費 法人住民税均等割	81,312 25,419 144,150 52,500
流動負債合計				303,381
(固定負債)	長期前受金		令和 9 年度会費	10,000
固定負債合計				10,000
負債合計				313,381
正味財産				93,145,877

監 査 報 告 書

一般社
理事長

監査終了後に差し替えます

私た
までの
り報告

1. 監

(1)

(2)

2. 監

(1)

(2)

(3)

以上

一般社団法人日本解剖学会
理事会 御中

公認会計士高岸事務所
公認会計士 高岸 圭 ㊞

<財務諸表等監査>

監査意見

私は、一般社団法人日本解剖学会定款第22条に基づき、2025年1月1日から2025年12月31日までの第13事業年度の貸借対照表、損益計算書（公益認定等ガイドラインI-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査を行った。

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）の状況を、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続事業の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続事業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部

統制を検討する。

- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続事業を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続事業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続事業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続事業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

<財産目録に対する意見>

財産目録に対する監査意見

私は、一般社団法人日本解剖学会定款第 22 条の規定に基づき、2025 年 12 月 31 日現在の第 13 事業年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して作成されているものと認める。

財産目録に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して作成することにある。

監事の責任は、財産目録作成における理事の職務の執行を監視することにある。

財産目録に対する監査における監査人の責任

監査人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して作成されているかについて意見を表明することにある。

利害関係

法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

5. 2026（令和8）年度予算および事業計画の件
 一般社団法人日本解剖学会 2026（令和8）年度事業計画(案)

事業	2026（令和8）年度（2026（令和8）年1月1日～12月31日）
学術集会の開催	本部 1回 第131回全国学術集会 会期：2026（令和8）年3月24日～26日 会場：東京慈恵会医科大学 支部 6回 第72回東北・北海道連合支部学術集会 第114回関東支部学術集会 第86回中部支部学術集会 第102回近畿支部学術集会 第80回中国四国支部学術集会 第82回九州支部学術集会
学術誌等の刊行	英文誌「Anatomical Science International」刊行 年4回 和文誌「解剖学雑誌」刊行 年2回
研究の奨励及び業績の表彰	奨励賞の選考、表彰 認定技術者功労賞の表彰
研究活動	解剖学用語の検討 各種懇談会・研究会の開催
認定技術者の審査	認定一級技術者認定試験 2026（令和8）年9月～10月実施予定 認定二級技術者審査 認定審査は随時実施
各種会合	定時社員総会：3月 常務理事会：年5回（予定） 理事会：年3～5回（予定） 各種委員会：総会・全国学術集会時 その他随時
広報活動	学会ホームページの拡充、ならびにアウトリーチ活動
国際会議関係	A P I C Aへの協力 諸外国の解剖関連学会との相互交流
その他	他学会（日本生理学会、日本顕微鏡学会）との連携（学術集会開催、学術誌の刊行など）の推進 若手研究者の育成・研究奨励 CST事業の一般社団法人化対応

収支予算書

令和08年1月1日から令和08年12月31日まで

一般社団法人日本解剖学会

科目	予算額	前年度予算額	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	44,000	1,000	43,000
特定資産運用益	16,000	200	15,800
名簿作成積立資産受取利息	1,000	100	900
特別事業積立資産積立利息	15,000	100	14,900
受取入会金	100,000	100,000	0
受取入会金	100,000	100,000	0
受取会費	19,325,000	19,686,000	△ 361,000
正会員受取会費	13,500,000	13,500,000	0
代議員会員受取会費	3,427,000	3,518,000	△ 91,000
終身会員受取会費	576,000	1,056,000	△ 480,000
学生会員受取会費	972,000	702,000	270,000
団体会員受取会費	510,000	510,000	0
賛助会員受取会費	340,000	400,000	△ 60,000
事業収益	40,525,000	35,283,000	5,242,000
全国学術集会収益	34,830,000	29,588,000	5,242,000
支部学術集会収益	3,400,000	3,400,000	0
会誌等頒布収益	1,700,000	1,700,000	0
広告掲載料収益	554,000	554,000	0
技術者審査・登録料収益	41,000	41,000	0
受取寄付金	20,000	20,000	0
雑収益	108,000	158,000	△ 50,000
受取利息	8,000	1,000	7,000
その他雑収益	100,000	157,000	△ 57,000
経常収益計	60,138,000	55,248,200	4,889,800
(2) 経常費用			
事業費	56,156,600	53,881,200	2,275,400
全国学術集会	37,330,000	31,088,000	6,242,000
支部学術集会	4,100,000	4,100,000	0
会誌製作費・編集費	2,406,200	6,711,000	△ 4,304,800
会誌発送費	638,000	1,320,000	△ 682,000
奨励賞・功労賞関係費	184,000	184,000	0
技術者認定業務費	136,000	136,000	0
学術会議関連シンポジウム費	100,000	100,000	0
委員会運営費	1,600,000	1,350,000	250,000
日本篤志献体協会	100,000	100,000	0
生物化学学会連合会費	50,000	50,000	0
男女共同参画学協会連合会費	15,000	15,000	0
脳科学関連学会連合会費	60,000	60,000	0
日本医学会連合会費	135,000	135,000	0
若手研究者の会運営費	500,000	500,000	0
ホームページ運営費	594,000	594,000	0

旅費交通費	426,000	244,000	182,000
印刷費	810,000	666,000	144,000
通信費	540,000	540,000	0
事務委託費	4,284,900	4,340,700	△ 55,800
諸謝金	247,500	247,500	0
若手育成支援	1,500,000	1,000,000	500,000
国際交流関係費	400,000	400,000	0
管理費	2,651,600	3,361,800	△ 710,200
ホームページ運営費	66,000	66,000	0
会議費	1,200,000	1,920,000	△ 720,000
印刷費	90,000	74,000	16,000
通信費	60,000	60,000	0
事務委託費	476,100	482,300	△ 6,200
諸謝金	127,500	127,500	0
支払報酬	462,000	462,000	0
租税公課	70,000	70,000	0
雑費	100,000	100,000	0
経常費用計	58,808,200	57,243,000	1,565,200
当期経常増減額	1,329,800	△ 1,994,800	3,324,600
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	1,329,800	△ 1,994,800	3,324,600
一般正味財産期首残高	93,145,877	94,278,491	△ 1,132,614
一般正味財産期末残高	94,475,677	92,283,691	2,191,986
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	94,475,677	92,283,691	2,191,986

6. 2027（令和9）年度予算執行の件

2027（令和9）年1月～3月（定時社員総会開催まで）の予算執行を理事会にて決定する。

7. 第134回（2029（令和11）年度）総会・全国学術集会開催担当校の件

第134回総会・全国学術集会担当校に名古屋市立大学、会頭に統合解剖学分野の植木孝俊先生を推薦したい。

V. 第132回（2027（令和9）年度）日本解剖学会総会・全国学術集会準備状況

閉会の辞